

柔らかなココロ 「相助相譲」

今年の年末はゆっくり過ごしたいなあ・・・と思いつつ、そう上手くいかないのが母の定め、冬休みに入って家で過ごす時間が多くなった子どもたちは、ここぞとばかりに、「ねえっっ！ねえっっ！ママ～！！」あれして、これしてと、リクエストの嵐。そうしている間に新年を迎えるのがここ5年間の私の年末年始になっている。

さて、そんな中、2018年の年の瀬は私の実家である五島列島で過ごすことになったのだが、事もあろうことか、うちの両親が年甲斐もなく、ど派手な夫婦喧嘩を始めてしまった。

そして、大人気なく私も参戦してしまったから、ととてもとても具合が悪い。

喧嘩の発端はもう覚えてないの(家族喧嘩なんてそんなもん)だが、コトの一部始終を主人に話すと、そんな年を重ねた両親を刀でバスバス切るような発言はいけんやろ～と、なだめられる始末。猛省する年末を過ごすこととなった。

五島列島の最終日、父がふと「かがみ(鏡)とは、神が我を見る道具なんだ。神の目は第三者的な自分の目なんだ」と言い出した。んんん？と思いつつも、教育者だった父は、昔から私にとって的を得た言葉をかなりの確率で投げかけてくれるので、しばし、何も突っ込まず聞くことにした。「お母さん(私にとっての母。昨日まで喧嘩していた自分の妻)はちゃんと鏡を見らんといけん」と、おもむろにつぶやいた。父としてはもっと母が客観的に自分を見つめて欲しいという類のことを言っているようだった。

が、しかし、鏡で言わせてもらうなら、夫婦は合わせ鏡だと強く申したい！(父には言えなかったけど)片方が曇ると相方も曇る。だから、出来るだけ自分の鏡くらいはピカピカに磨く努力をしておく方がいい、と実行出来ているかは別としてつくづく思う。

私が結婚した際、師匠である吉岡剛先生夫妻よりある言葉を頂いた。柔道に精通している方ならピンとくる「相助相譲」という言葉である。この言葉は“合わせ鏡”と一緒に私の中にいつもある。夫婦喧嘩をしそうになったその瞬間、私は「相助相譲・相助相譲・相助相譲」と3回念仏のように心の中でつぶやくようにしている。人間の怒りは6秒でおさまるという心理的効果も手伝い、事なきを得る事が何度あったことか。

今でもうちのリビングの一番目立つところにあえて飾らせて頂いている次第であります。



この言葉を後世に残した嘉納先生は、はたして夫婦喧嘩にも効くと思っていたのだろうか定かではないが、今後も確実に私たち夫婦のつまらぬ躓きをマルッと収めてくれる魔法の言葉であることは確かである。今年はどうかこの魔法の言葉を使う前に善処していく、、、と思っています。さあ、みなさま本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(近藤 優子)